

進路だより

光陵中学校
第3学年
2005.2.10
第51号

受検校を決定する前にもう一度考えて欲しいこと

～ 愛知県教育委員会のホームページに公開されている資料から ～

「学校基本調査」から見る生徒数の推移(再掲)

(<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/kyoiku-somu/tokei/kihon/h16/index.html>)

市内県立高校の生徒数 (過去4年間)		全日制課程生徒数				定時制課程生徒数				
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
瀬戸・瀬戸西	H13年度	1,090	1,038	1,086	3,214	37	19	19	10	85
瀬戸北	H14年度	1,039	1,053	1,009	3,101	33	22	18	16	89
瀬戸窯業	H15年度	1,004	995	1,013	3,012	26	27	20	13	86
4校の合計	H16年度	1,002	969	945	2,916	30	18	20	15	83

瀬戸市内にある県立高等学校(全日制)4校では、14年度に入学した1年生は、1,039人、15年度に2年生に進級した生徒は、995人、16年度に3年生に進級した生徒は、945人。つまり、2年間で94名(=2学級分以上)の生徒が減っていることとなります。

市内の全日制、公立高校に合格し、入学した生徒の約9.0%の生徒が何らかの理由で3年生に進級していないこととなります。全県では5.7%ですから瀬戸市のこの比率はかなり高いと言えます。

瀬戸窯業高等学校(定時制)については、13年度に入学した1年生は、37人、14年度に2年生に進級した生徒は、22人、15年度に3年生に進級した生徒は、20人、16年度に4年生に進級した生徒は、15人。2年間で17名(=約半数)の生徒が減っていることとなります。

(定時制の場合は、3年で卒業する生徒もいるので4年生の数について3年時より減ることはあります。)

「中学校卒業見込者の進路希望状況調査 - 平成16年度第2回 - 」

から見る公立高校の希望者数

(<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/kyoiku-somu/tokei/sinrokibo/h16no2/index.html>)

学校・学科名	募集人員 (B)	希望者数 (A)	倍率 (A/B)
瀬戸	240	230	0.96
瀬戸西	240	404	1.68
瀬戸北	240	659	2.75
窯業セラミック	80	104	1.38
窯業デザイン	40	79	1.98
窯業商業	80	174	2.18
窯業電子機械	40	112	2.80

(調査日 平成16年12月5日)

昨年の12月時点での公立高校への希望者数が公開されています。(詳細や表に掲載していない学校について知りたい人は河地先生のところまで来てください。)

瀬戸高校を希望する生徒が増えました。この中には、12月5日時点の希望者数で、瀬戸高校が「定員割れ」の状態になっていることを知って、希望を変更した人もいます。これは、新聞発表もされた資料なので、県内の多くの受験生も同じ様に志望校を変更していることが予想されます。2ヶ月以上たった現時点では、希望者数は募集人員を越えていると思われます。

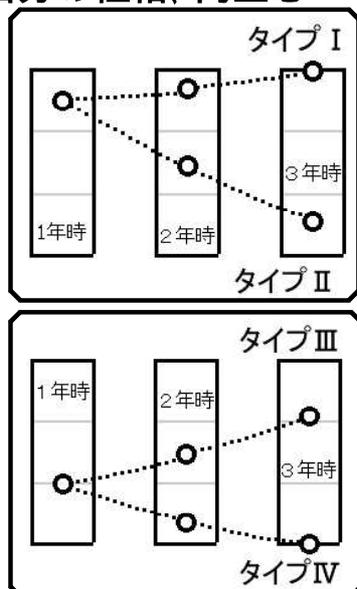
これまでの懇談会や教育相談では、その学校に合格できるかということだけではなく、「それぞれの進学先での学習についていくことができるか」も考えてアドバイスを行ってきました。

「定員割れしたら入れるんじゃないか」と安易に考えるのではなく3年間の高校生活をどのように過ごすかをよく考えて欲しいと思います。

ここ数年、市内の公立高等学校でも「定員割れ」し、「二次募集」が行われました。その結果、その学校での学習に必要な基礎学力を持たないまま入学してしまった人もいないわけではありません。入学しても、進級・卒業できなくなるのはとても不幸なことです。

入学後のことも考えてください

自分の性格、向上心



タイプ I 入学時に比較的上位であったため、自信と余裕を持って学習に取り組めるようになる。友だちからも勉強に関し頼りにされるようになる。3年後、指定校推薦で第1希望の大学へ進学！学校推薦で希望する企業に就職！

タイプ II 入学時に比較的上位であったため、「大して勉強しなくても大丈夫だ。」と過信して、勉強しなくなる。気づいたときには授業内容がわからなくなってしまい、成績も低下していく。

タイプ III 入学時に比較的下位であったため、悔しい思いもあったが、負けず嫌いで、努力を続け、着実に成績を伸ばしていき、3年後にリベンジ！（タイプ II を越え、3年後の結果として、タイプ I と同等の進路に）

タイプ IV 入学時に比較的下位であったため、「高望みだった。」とあきらめてしまい、全く勉強をしなくなる。進学希望者の多くの人には、3年後に次の進路選択が訪れます。その時にどうしていいかをもう一度考えてください。

受験（検）校を決める際、合格できるか否かだけを考えてはいけません。

あなたが入学したら、その学校の中でどの位の成績でいられるでしょうか？

あなたは、逆境に強い人ですか？努力できる人ですか？あきらめのはやい人ですか？

何のために進学しようと考えているのですか？

学びたいことや身につけたい技術・資格は何ですか？

入学したら、その知識・技術・資格を自分のものにしようという強い意志はありますか？

進学を希望する学校で努力を続けることができますか？

入学することが目的であるという誤解をしていませんか？

入ってしまえば何とかなると甘く考えていませんか？

希望する学校についてよく知っていますか？

どんな授業(科目名や時間数)が行われているかわかっていますか？

教室や進路学習室にあるパンフレット、ガイドブックも改めてじっくり読んでください。

体験入学や学校説明会での説明や自分の見たことを思い出してください。

進学先を決めるときに「何となく進学しようと思っていたから決めた。」「親や先生のいわれるままに(=自分では十分に意思表示せず)決めた。」「ここなら、受かると考えていたから(どんな勉強をする学校か知らないまま)決めた。」「どんな雰囲気(学校)がよく知らないけど決めた」

……という状態にならないためのお願いでした。

いま、選ぶのは

勉強したいと思う高等学校

卒業したいと思う高等学校です。